

## 自己評価についてわかっていること

バトラー後藤裕子

小学校の英語活動が5-6年生で必修化されるにあたり、評価をどのように行うかに関心が集まっている。評価には学習の結果を把握する (assessment of learning) だけでなく、評価をいかに直接的に指導や学習に結びつけるか (assessment for learning) という側面もある。本発表では、この2つの評価の側面を紹介した後、小学校の現場でも導入が進んでいる自己評価を例にとりながら、自己評価についてわかっていることは何かについて整理をする。その結果に基づき、どのような点に注意して自己評価を導入したらよいのか、特に、自己評価を指導の一つのツールとしてとらえる可能性を提示する。

### 講師紹介

東京大学文学部卒業後、スタンフォード大学教育学大学院で博士号 (Ph. D. 教育心理学) を取得。スタンフォード大学教育研究センターのリサーチ・フェローを経て、現在ペンシルバニア大学教育学大学院言語教育学部教授。同校の Teaching English to Speakers of Other Languages (TESOL) プログラムのディレクターもつとめる。日本語での著書に『多言語社会の言語文化教育』(くろしお出版) 2003年、『日本の小学校英語を考える』(三省堂) 2005年、『英語学習は早いほうがいいのか』(岩波新書) 2015年などがある。



### 申し込み方法

教員キャリア研究機構・小学校英語教育研究領域 事務補佐員 小野世令央

✉ pseer.mue@gmail.com または TEL&FAX : 022-214-3493

お名前・ご所属をご明記の上、お申込みください。✕切：7月22日(月)

主催：宮城教育大学英語教育講座・教員キャリア研究機構 (小学校英語教育研究領域)

後援：小学校英語教育学会 (JES)、東北英語教育学会 (TELES)

参加費無料！